

ご意見書

I. はじめに

まず、お話をする前に論点がたくさんあるということ、そして、DX化にも複数のレベルがあるということの確認が必要だと思いました。

(1) 論点

・論点がたくさんある。変更するにしても、①ネーミング・パッケージングレベルの変更、②カリキュラムの変更、③学科構成などの大規模な変更、④広報の変更、などがある。

(2) DX化

・DX化も、①底上げレベルと②専門的な知識とに分かれる。

II. 具体的提案点

◎学卒者向けの科について

(1) 学卒者向けの科のネーミング

・問題は「入り口」だと思います。就職はどこもよくできているように見えましたので、科のネーミングを工夫するというのは一つ対策かもしれません。ポリテクセンターでもIoTのネーミングで集客に成功していました。

たとえば、メカトロニクス科→メカトロニクス/CADCAMデザイン科とか。電子情報科→電子情報/IoT科とか。(ちなみにネーミングはすぐ古くなりそうなので、定期的に(毎年とか2年おきなど)見直す制度にするとよいと思います)

(2) 学卒者向けの科について (IT系)

学卒者向けについても、もし可能であれば、IT系の科を追加できるとよいかもしれません。

a. 新科の追加について

・3科に加えて、IT系の科が追加できるとよいかもしれないと思っています(民業とのすみわけや教員の問題もありますが)。基本情報技術者試験などに合格することを目的とする導入の科を作り、さらに上の資格を求める人を対象に、民間のものに参加するのに助成を行うというようなプログラムができたらと思います。

b. 新科の教員について

・IT系は技術がすぐ古くなるので、たとえば正職員として雇うのではなく、技術をもっている人をパートタイムで雇い、オンラインで授業してもらい、というのができたらよいと思います。パソコンの使い方など、導入部分については現在いる情報系の教員が対面でサポートする機会を設けたらよいと思いました。

c. 陳腐化が早いと思うので、教える内容についても、定期的(毎年とか2年おきとか)に見直す制度にするとよいと思います。

◎離職者向けの科について

(1) 木工とリフォーム科

・離職者の木工・リフォームを一つにする。根塚さんが大工の学校はどこもガラガラだと言っておられました。ただ、担当教員の方の対応が悩ましいですね。または、キャリア相談に回っていただくとか？先生方は学生相談をととてもよくされているようなので、キャリア相談専門になっていただいてもよいのかもしれない。

(2) 高齢者用を意識した科（短いコース？）を作る？

・高齢者人口が増えていることから、高齢者を対象として意識したコースを提供するというのも一案です。たとえば、高齢者の IT 能力の底上げを目指して、「インターネットを使った仕事の探し方」みたいな 1 回数時間のコースを提供してもよいのかもしれない。ハローワークでも行われているということでしたが、CIC ビルや、地域の公民館みたいな場所でやってみてもよいかもしれません。

・高齢者の IT 能力の底上げは、これから富山県の行政コストを下げる上でも重要です。

(3) 離職者向けに IT 系の科を作る

a. 新科の追加について

・離職者向けにも IT 系の科を作ることができたらよいとおもいます。基本情報技術者試験などに合格することを目的とする導入の科。さらに上の資格を求める人を対象に、民間のものに参加するのに助成を行うというようなプログラムができたらと思います。

b. 新科の教員について

・こちらも、IT 技術はすぐ古くなるので、教員は正職員として雇うのではなく、パートタイム雇用により、オンラインで授業を行うということがよいと思います。（採用地域を富山に限定しない方が、適材を選びやすいように思います）

c. 陳腐化が早いと思うので、教える内容についても、定期的（毎年とか 2 年おきとか）に見直す制度にするとよいと思います。

d. 新科の対象学生について

・受ける人の範囲を広げられたら（制度的に無理かもしれませんが）希望者は増えそうです。たとえば、学生とか、育児休業中の人とか。就業中の人とか。

・個人的には python のコースとか、色々あれば受けてみたいと思いますが、どのくらい県民のニーズがあるかですね。でも、安く受けられるのなら受けてみたいと思う人は結構いるのではないかと思います。

(4) 広報について

広報についても工夫されると今までよりうまく学生を集められるかもしれません。今回参加していちばん驚いたのが、溶接はニーズが高く、賃金も高いということでした。たとえ

ばシングルマザーで安定した収入が必要な人など、もし知っていたら選ぶ方は実は多いのではないのでしょうか。女性向けの溶接もあるようです（精密な溶接）。たとえば、ハローワークでも溶接のメリットを女性に伝えるとかできれば、希望する人は増えるような気がします。

<追記メール①>

また追記なのですが、育児休業中にオンラインコースが取れるというのは結構やくだつかもしれません。

最近の労働相談で多いのは、産休育休で戻ってから待遇の差別があるというケースだとおっしゃっていました。また、産休育休で長く休んだために、技術についていけなくなるという話もありました。産休育休中に人的資本を改善することができれば、休むことで技術についていけなくなるというデメリットを軽減させる（むしろアドバンテージにもつなげられる）かもしれません。

実は私、女医さんの研究をしていたのですが、産休育休中に専門医の資格の勉強をされるという話を聞いたのです。研究者も産休育休中に本を執筆したりします。なので、産休育休がキャリアが遅れるきっかけになるだけではなく、使いようによってはキャリアを進めるきっかけにもできるのかなと思ったのです。

もちろん、個人の体力や体調ややる気にもよるかもしれませんが。また、ダイレクトに現在の仕事につながっているコースがないかもしれませんが。でも、IT 技術を磨けば転職もしやすくなりますし。選択肢が増えるのはよいことかなと思います。

<追記メール②>

(1) 就職先について

もしIT 関連の科を増設する場合、オンラインで（リモートで県外企業で）働ける就職先も県がまとめて紹介できるとよいと思いました。（実際、ネットで探すといろいろ求人はずれます）

実は、先日の訪問で、砺波では近隣の企業の IT 化が遅れているため、IT 能力があっても受け皿がないという話がでてきたのです。

でも、地元の企業には受け皿がなくても、富山からリモートで県外企業で働けるケースもあるので、そういう就職先があれば、砺波に住む人が IT 系の勉強をしても生かすことができますので。

特に富山は人件費が安いので、企業としても富山の人に対する潜在ニーズはもしかしたら結構あるかもしれません。

(2) 授業の配信について

また、もし複数の校舎（たとえば砺波と富山）で IT 系の科を増設する場合、複数の校舎に同時配信できるので教員は 1 人で済むと思います。自宅からもアクセスできるようにすれば、子育て中の女性なども参加しやすいのでよいと思いました。（また、あとから授業動画を you tube みたいな形でオンデマンドで好きな時間に配信できれば便利だと思います。

<追記メール③>

(1) 入口と出口の割合についての前提について

入学定員充足率（入口）と就職率（出口）はそれぞれどのくらいを目指せばよろしいでしょうか。100%を目指すのか、それとも 70%くらいでよいのか？それによって、対策も変わってくると気づきました。

たとえば、離職者用の「出口」が 7～8 割でよいのであれば、出口については現状のままでも良い科もあります。その場合は「入口」を工夫すればよいということになるわけですが。

一方、出口について 9 割 10 割を目指すのであれば、また変わってきます。

なので、そこをまず確認する必要があると気づきました。

(2) 高齢者向けの離職者コース

先日、富山校の先生方とお話しさせていただいた時、若者の人口は減っているので高齢者向けのコースを作ったらどうかというお話ができました。案のひとつはビルメンテナンスだそうです。

ビルメンテナンスですと、環境エネルギー設備科とかですかね？広く考えると、木材加工や造園管理なども役立つかもしれない？と思いました。（たとえば、ビルの内装の木材の部分とか、ビルの中庭の樹木とかのケアで）

そのあたりはあまり人気がない科なので、まとめてしまう、ということもできるかもしれません。

ただ、ビルメンテナンスについては、高齢者のニーズが実際にどの程度あるのか、調査してからの方が安全かもしれません。

<追記メール④>

しばらく前に富山にコールセンターを富山に誘致したという件がありましたが、あれのIT版で、ITサポートセンターのようなものをもし富山に誘致できたらよいと思いました。

そして、そこで働けるような人材を職業訓練校で育成すると。（そうなるのとそれに必要な人材を育成するコースが必要になるわけですが）

富山ですと、人件費も東京より安いですし、方言もきつくないので、企業からしても魅力があるかもしれないと思います。さらに訓練やそのアップデート費用を県が負担することになるのでそれも魅力的だと思います。

働く側からも、県外にでなくて、付加価値のある仕事につけるわけなので。メリットがあると思いました。

インドがそうなんですよね。アメリカのITサポートを、インドで担っているケースが結構あるようです。インドはIT大国で、英語が通じるし、人件費がアメリカより安いので。

富山インド化計画という大変かもしれませんが、そういう立ち位置に立てたら、若者の流出も防げるかも？しれないと思いました（うまくしたら、流入も期待できるかも）

実際には、どのくらい実現可能性があるのかは、専門家に相談してみないといけないですが。

大がかりな話ですし、実現可能性も難しいかもしれませんが、、、職業訓練校の「出口」にもなるし、将来の富山のあたらしい産業づくりにもつながるかもしれないと思い、とりあえずご連絡させていただきました。

（事務局より質問）

「ITサポートセンター」というのは、県民のPC等のツールを使いこなす力の底上げの施設をイメージされているのか、インドの「世界のITサービスセンター」のように数多くのIT専門企業をイメージされているのか、どちらでしょうか。

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/outline.cgi?das_id=D0005120453_00000

(返信)

イメージは後者です。「世界のIT サービスセンター」のようなイメージ (のもっとずっとスケールの小さいバージョン) です。

すぐには難しいと思います。将来的な話についてのアイデアです。突飛な話でいきなりすみません。

コールセンター業務を富山で引き受けたような感じで、IT 関連の対顧客サポート業務の一部を引き受けたりできないか?と思っています。(コールセンターのもっと専門知識が必要で高付加価値なバージョンです。)

実はすでにプレステージインターナショナルさんでも、一部、IT や PC 設定のテクニカルサポート業務をされているようです↓。同じような企業をもっと誘致することができたり、さらには IT 関係で今よりもっと専門性が高いサポートも引き受けられるようにできたらよいかもしいないと思いました。(そして、そこに訓練校での訓練成果を生かすことができれば)

<http://www.prestigein.com/solutions/index.html>

現状だと、IT 系の教育をしても、地元企業が生かしきれないという話を伺ったので、なんとか教育を生かせる就職先の選択肢がもし増えたらよいと思い、いちおうお伝えさせていただきました。

私もこれがどのくらい具体的に可能かなど、まったくわかりません。どういう風に誘致できるのかなどもわかりませんので、まったくの的外れでしたら申し訳ありません。

さらにサポート業務だけじゃなくて、開発とかも含めた、アウトソーシング拠点になることができたらすばらしいと思いました。

なかなか壮大な話で、難しいかもしれないのですが、、、。

<追記メール⑤> (公共職業能力開発施設 (東部) の視察を受けて)

・新川センターのエコ住宅リフォーム科を富山市に移動 (できる?) 校長先生ご自身は移動してよい (他の科が拡充できさえすれば) というご意見でした。

(リフォーム科は高齢者が希望するケースが多いが、新川周辺ではリフォーム系の高齢者の求人が少なく、成績が悪くなるためハローワークでコースを紹介したがない。

だから、コースが充足しない。富山市の求人が多いため、就職率も改善?ただ、富山でもよ

くなるのかどうかは不明？地理的に人は集めやすいかも。）

・ものづくりのコースを作る。ただし、訓練用の機材などの導入は高額であるため、たとえばCAD科などにして（女性にも人気）、主にPC上の製図を教え、実習については魚津の職業訓練大学校や他の訓練校で行う（例えば2週間のみとか。大学校の方も協力してくださりそうな感じでした）。

可能であれば、PCの座学はオンライン授業にして、他支所の教員（または外部講師）が教えられれば、新たに教員を雇わなくてもよいかも。

・ただし、新川地区のものづくりコースについては、企業のニーズ（たとえば訓練コースを受けた高齢者を雇う気があるかとか、中途採用のニーズがあるか）を確認してからの方がよい。

（建設会社は人材不足ではあるものの、高齢者を雇いたがらないため）。

・あとは、オンラインで教えるIT系の科目も提供できたらよい。